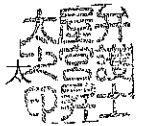


甲 4 3 の 1 反訳文

平成 28 年 10 月 31 日

控訴人代理人弁護士 屋 宮 昇



録音日 平成 26 年 12 月 16 日

録音時間 27 分 30 秒

録音者 控訴人

発言者 控訴人 大内●氏 比嘉良仁氏

出口 広報はこちらですか。

〇〇 はい？

出口 広報は。

〇〇 そうです、こちらです。

出口 すみませーん。どうも、出口と言いますが。

岡戸 私は名刺切らしてしまして。ありがとうございます。

出口 どうも、出口です。すみません、よろしいですか。

岡戸 どうぞ。

出口 電話でいろいろご心配かけたと思いますが、今日はぜひともお会いして経過も含めてご理解していただきたいと思ひましてお邪魔しました。今年の 4 月でしたかね、私が。

寺田 あの、3 月 31 でした、…？…。

出口 そうでしたか、どうもすみません。

寺田 いえいえ。

出口 年度開始の直前に電話を入れまして、それで、飯島明子さんという准教授がここに在籍してるかどうか、まず確認の意味でお電話させていただいて、飯島さんがパネル展示の中に書かれてある、それはご覧になりましたか。

寺田 いえ、…？…。

出口 見てないですか。それについて 2~3 いろいろあちこちから、これはひどいねといのがあったものですから、この件について確認させていただいて、その中身についてどういう対応をしたらいいのか。それについては相談する意味で電話をしたのですが、ちょっとその後は電話がなかったんですよ。

それはなぜ電話はなかったのかということが一つと、もう 1 点は資料を今持って来ているんですけども、すごい量がありましてね。これが飯島さんのパネル展示の中身なんです。特に問題として指摘したかったのは、EM という有用微生物群が

除染をうたって人の不安につけこむ悪質商法だということが一つと、もう一つは EM はオウムだという、いわゆる地下鉄サリン事件を起こした、そういう危険なものだという指摘。これは研究者の自由な研究というところを逸脱して、一企業の商品を著しく中傷、誹謗するものだという理解でどうなんだろうということの相談をしたかったんです。

あるいは、水浄化については青森県等々を含めてですね、効果がない、害があるというのについても実際に青森県の調査。たぶんこれは朝日新聞を基にして言われているのだと思いますけども、実際、1年間調査をやった経過の中で、こんなのは説明してもしょうがないんですが、全地点で減少しているという結果もあって、誤った朝日新聞の記事をそのまま鵜呑みにしているということも含めて、これの相談が一つ。

それで、それは EM 研究機構のほうから学長宛てに質問を送らせていただいて回答が来ておりますので、それはそれとしてよろしいというふうに思います。大学側の判断ですから。

ただ1点、先ほども電話でお話ししたように、私が寺田さんにお話ししたのはこういうことについて確認していただけないかと、あるいは確認していただいた上で、どのような対応の仕方があるのかを相談したかったんですけども、電話をしてもう翌々日に、某団体の某氏から恫喝の電話が？来ました。しかし、その旨をツイートしてまとめたところ、多数の人が閲覧したようで某氏の目論見は外れたというより逆効果になったと。というこのツイッターで職場の人と相談したとかですね。まあ、相談したんでしょう？

EM 関連団体が科学的根拠を持って冷静に批判している研究者の所属機関に、名誉棄損だとクレームを付けていますと。これは全部飯島さんのツイッターなんですけども、その中で、恫喝という言葉が繰り返し繰り返し、すごい数が出てくるんです。これがリツイートされて、さらに高じてこの左巻さんという人がリツイートして。

これも、昨日は事務方の主だった部長たちと話し、あらためて信頼関係を強化するべきと言いましたと。わが校は良い事務部長に恵まれてる何だりと。私の勤務校に私の偽科学批判発言についてクレームを付けてきた方がいらっしやいました等々。教員の言論を封殺するなんてことはありませんというようなことをずっとこう書い

て、ここではあまり具体的にはお見せしませんけども、それが恫喝だという表現に変わって、さらにヤクザ的な、ヤクザまがいだというのがすごい数書かれてるんですよ。リツイートされて。先ほども寺田さんにお電話して、事実関係について寺田さんはけっして恫されてはいないというふうな話があったじゃないですか。私が寺田さんに話した話が寺田さんから、上司ですか？

岡戸 ええ。

出口 お宅さんから飯島さんにお話しされたんでしょうか。

岡戸 いや、私からは。

出口 別な方ですか。

寺田 そうですね、ごめんなさい。その事実かどうか確認をしたのですが、メールに関しては飯島には私のほうからこういったお問い合わせが来ているという形で。

出口 メールですか。

寺田 そうです。

出口 ああ、はい。

寺田 あとは、いろんな方に宛ててご報告申しましたけれども、飯島先生のほうには出口様からこういった名誉棄損に当たるような飯島先生の主張と言いますか、そのEM 機構に関するご意見が名誉棄損になっているのではないかというようなお問い合わせをいただいている。ただ、それに関してはもちろん私たちは知識もございませんし、飯島先生のほうからご連絡いただけますと幸いですということでコメントいたしました。

出口 できればそれを…？…から…？…のほうに名誉棄損…？…というふうに入れていただければありがたかったのですが、どういう経緯でその脅しとか恫喝というふうにしり替わってしまうんですかね。

寺田 何と言うか、飯島との、本当にもうやり取りということになってしまいうんですけども、私たちとしては何も。本当に、いただいたものを伝えただけです。

出口 その…？…メールか何かの文面は見せていただけないんですか。

寺田 ちょっと無理です。

出口 無理ですよ。じゃあ、中身は？ こういう指摘があったということですよ。

寺田 えーと。

出口 その恫喝とか脅しというのはどういうふう理解されますか。

岡戸 何に対してそれを言ったかなんて分かんないでしょう？ ねえ。

出口 飯島さんがですね。

岡戸 うん、私も、だから今ちょっと全体の流れがよく分かってないので、どのことに対しての言葉なのか。

出口 電話が職場に行きましたということだと思います。

岡戸 間接的なのということなんですかね。

出口 恫喝の電話が職場に来たというふうに飯島さんがとらえるには、とらえるなりの何かがあるんじゃないですか。違いますか？ そんなことはないですか。

寺田 こちらとしては本当に、？うちにいただいたお電話は何も…？…。

出口 飯島さんには恫喝とか脅しの電話ということは一言もおっしゃってないんですか。

寺田 はい。

出口 言うわけないですよ。

岡戸 ないですね。

出口 恫喝とか脅しというのは危険な話ですからね。命を狙うぞとか、？よろしければ相手に何か危害を加えるという意味ですからね。

岡戸 …？…。

出口 ええ、恫喝というのはね。ですから、あらためて今日はその確認と、僕がどれだけネット上で、神田外語大学の広報に電話したということで、どれだけ集中砲火と言いますか、それこそもう名誉を棄損されるような、ネット上でそうですけども、それで今度は別の形で相談したいんですけども、それはどなたに相談するべきですか。

…？…事務局長さんとか、学長さんというわけはいかないでしょうけども、神田外語に電話したことで、それが恫喝や脅しということでネット上にすごい勢いで拡散されてですね、ヤクザまがいという言葉まで使われているんですよ。

これはここだけの話ですけど私も、裏をちょっと見てくださいよ。これ、ジャーナリストを自称していますけども、金沢工大の客員もして、金沢工大の事務局の人にも心配してくれてましてね。

岡戸 黒田先生にはすごく。

出口 ああ、そうですか。

岡戸 ええ。わが校で？お世話に。

出口 ?少なくともなってる?

岡戸 はい。ずいぶん長い間。

出口 これは普段あまり使わないんですけどね。それから、こういう上場会社の社外役員もやっています、自分の会社もやっていますけれども、今回ちょっと比嘉先生の連載をこのサイトでやっているんですよ。それが原因でいろいろ私も攻撃を受けるんですけども、これは放っておくと、いろいろ関係のところに信用毀損のような被害を現実には被り始めますので、実は僕は広報に電話をして、その時に脅しも恫喝もしてないというのをどこかで話していただきたいと言いますかね。

それはできなければできないで結構なんですけど、あとは年末はちょっとこういうことで忙しいものですから、年明けでもその資料を揃えて、僕が広報へ電話したということでもどれだけ攻撃を受けているかということ、暗黒通信団とか左巻さんとか、ツイート、リツイートが何十万件という数になっているんですよ。もちろん関係のところにはちゃんと説明してるので、出口さんのことはよく分かっているのと理解してもらっていますけども、僕の名前で検索してもそのヤクザまがい、ヤクザとか恫喝したとか、こういうようなものが出ていることについてはちょっと看過できない状況になっているということ、理解していただければなと思ってるんですけどね。

どこかに誤って飯島さんに伝わったのか、飯島さんが別な意味で解釈を間違えたのか、それとも、そういう大学に問い合わせたということ、を好ましいとは思わずに、逆に騒ぎ立てたというのか、その辺の真意のほどは分かりませんが、ここだけちょっとはっきりさせたいなと思うんですよ。大学の側からは飯島さんに対してその脅しがあったとか恫喝めいた暴言があったとか、そういうことは一切言っていないと。これはあくまでも飯島さん個人の理解、判断に基づく、もう少し言えば誤った理解だと。

恫喝の電話っていうのはきわめて危険な発言ですからね。恫喝というのはね。これが当たり前でネットに出てるといことなので、ちょっともう1回どういうふうに出回ってるかについて、しかるべき…?…お話しさせていただきたいと思えます。たぶん同じことになると思うんですけど、お話しはですね。今日はお名刺いただけないのであれですけど、たぶんそれなりの理由があるんだと思えますけれど、ただ、私からの話を今日は聞くということですよ。

岡戸 はい、そうですね。

出口 これについてあらためてまた年明け、ちょっと受験等々で忙しいでしょうけども、
落ち着いたところで資料を揃えてまた相談に上がりたいと思いますので、その時は
しかるべき立場のちゃんと名刺を出してくれる方にですね。

岡戸 というか、でも、大学としてはちょっとかかわれないというか、あくまでもこれ、
飯島先生の個人の発信ですから、われわれとしては出口さんのほうから、あるいは
EMさんなのか、どういう。

出口 いや、これは私の問題ですけども。こういうふうに、でも、飯島さんが書いてる
以上ですね。

岡戸 ですから、飯島先生に言ったらいいと思うんですよ。

出口 飯島先生に何てですか。

岡戸 ですから、名誉棄損であればそういう。

出口 名誉棄損というか、恫喝の電話じゃないということをはっきりしているわけでは
よね。

岡戸 はい。

出口 ですから。

岡戸 書いた以上は書いたなりの、それは飯島先生としての理由か何かがあるんだと思
うんですよ。その電話うんぬんだけじゃなくて前後なのか、あるいは違う機会なの
か。それは全くわれわれの分からない世界ですけど、われわれの受けた電話をこの
まま伝えただけの話ですから。だから、こういう言葉が出てくるということはやっ
ぱり周りのいろんな環境があるのかもしれないですし、前後の何かやり取りがある
のかもしれない。

出口 いや、前後のやり取りは一切ない、飯島さんについては。

岡戸 ああ、そうなんですか。

出口 ええ。飯島さんという人は知りませんしね。

岡戸 ああ、そうですか。

出口 ええ。面識ありませんし。初めてここに電話したわけですから。

岡戸 ああ。

出口 全く面識も何もないです。私、飯島さんのことをコメントしたこともありません
し。ええ。

岡戸 じゃあ、単純な勘違いかもしれませんね。だから、その辺のところは直接飯島先生へ確認するというのも一つ。

出口 ですから、職場に恫喝の電話があったというのは違いますよということを飯島先生に言っていただければありがたいのですが。それは違うんじゃないんですかと。

岡戸 言う機会があれば言うことは可能だと思います。

出口 ねえ。それを言っていただいて間違いでしたというのであれば、これを削除してもらいたい。そういうことも含めてどういうふう。知らない人が神田外語に電話したというだけで恫喝だヤクザだということを何万と。

岡戸 ヤクザってどこにいてという。

出口 ヤクザっていうのは、これは別なふうに出てるんです。左巻さんという人がですね。今日は資料を持ってきてませんが。

岡戸 ああ、いいです、いいです。

出口 それはまた。

岡戸 どっかには全部出てるということですよ。

出口 いや、もうすごい数出てます。

岡戸 ああ、そうですか。

出口 それは今、全部資料を揃えて。それは左巻さんという法政大学の教授の発言についてですね、飯島さんが恫喝だというから、こういうことをやっているんだということを追認する形でヤクザ的だというふうに決めつけてるんですけども。それは飯島さんが恫喝だと言うからそうなるんですけども、そういうヤクザ的だというふうに言っている側は左巻さん…？…ですから、直接この大学には関係ないので。でも。

岡戸 そういうことを情報として持つてるので、そういう勘違いが発生するという…？…。

出口 いやいや、ここから始まってます。ここから。

岡戸 はい。

出口 恫喝っていうのは。これが一番最初なんです。4月の2日前後ぐらいからですね。

岡戸 はい。…？…。

出口 恫喝というふうに、今は信用しますが、メールでも出したというのであればそこに証拠が残っているわけですね。なので、恫喝の電話があったというふうには

一切大学は言ってなければ、それは職場に恫喝の電話があったという、それは飯島さんの間違いだということは、ここでは分かりませんか？ 間違って第三者を傷つけたり信用毀損になるようなことであれば、それは飯島さんに、恫喝の電話というのはちょっと違うんじゃないですかということを一言言っていただければと思います。

それがどのように拡散して貶められているかというのは、また年明け、資料を揃えて相談に伺いたいと思いますので。

お名前だけ聞いていいですか。

岡戸 はい、岡戸と言います。

出口 岡戸さん。

岡戸 はい。

出口 すみません、忙しいところ。また…？…。

岡戸 大学としては何もできませんので、その辺のところは。

出口 その確認だけです。恫喝の電話があったわけじゃないということを、飯島さんにそれとなく注意していただければと思います。あれ、文面を見ると、岡戸さんかどなたかがこういう脅しの電話があったということを飯島さんに伝えたから、飯島さんが職場に恫喝の電話があったというふうに書いてるんじゃないかというふうに理解する人もいるかもしれません。

岡戸 それはないですけどね。

出口 でも、現実、そういうふうになってるので、それについては飯島さんにここはちょっと違うんじゃないですかということをおっしゃっていただきたいと思います。

岡戸 今日来られて話されたことは…？…。

出口 資料、要りますか。

岡戸 いや。

出口 私の被害のほうの関係についてはまた年明けにあらためて伺いますので、よろしく。

岡戸 今は来られてもべつに何もできないですけどね。

出口 うかつに電話できないということですよ。どういうふうに伝えられるかということで。ですから、電話じゃなくて実際に会って話をしないといけないかなというのは一つの反省点であるわけですけど。どうもすみません、忙しいところ。

岡戸 …？…よろしいですか。

出口 いいです、参考に持っていてください。こういう影響を受けるということだけ理解していただければと思います。また、この経緯なんかも、いちおうジャーナリストでありますので、活字になることもありますので、その時はまた。
すみません、よろしくどうぞ。

岡戸 はい。

以上